

「はなはさかりに」 ぼうせんちゅうしやく。ふりんと そのに

次の（　　）内の挿入注釈を参考に、ノートに書写した本文に傍線注釈をしなさい。仮名書きを常用漢字に直すこと。（　　）内は傍線注釈では挿入として記すことになる。挿入注釈は必ず書くこと。また、（　　）には自分で考えた挿入句を入れること。

太字の語を文法的に説明しなさい。

担当に当たつた人は、授業開始前に黒板に傍線注釈をノートから写し、下段にある間に答えるように準備しておくこと。

⑨望月のくまなきを千里のほかまで眺めたるよりも、暁近くなりて待ち出でたる（△△△）が、いと心深う、青みたるやうにて、深き山の杉の梢に見えたる（ようすや）、

⑩木の間（からもれるつき）の影、うちしぐれたるむら雲隠れのほど、またなくあはれなり。

⑪椎柴・白樺などの、（みず）ぬれたるやうなる（つやつやした）葉の上に（つきのひかりが）きらめきたるこそ、身にしみて、心あらん友もがなと、都恋しうおぼゆれ。

⑫すべて、月・花をば、さのみ目にて見るものかは。（△春は（△△△）を）家を立ち去らでも（おもいをはせたり）、（△△△）の季節の（△△△）月の夜は闇の内ながらも（△△△）を）思へるこそ、いとたのもしう、をかしけれ。

⑭よき人は、ひとへに好けるさまにも見えず、興ずるさまもなほざりなり。（△片田舎の人こそ、色濃くよろづはもて興ずれ。

⑯（△△△）の花のもとには、ねぢ寄り立ち寄り、あからめもせずまもりて、酒飲み、連歌して、果ては、大きな枝、心なく折り取りぬ。

⑰泉には手・足さしひたして、雪には下り立ちて跡つけなど、よろづのもの、よそながら見ることなし。

問一、「あはれ」な月の鑑賞の仕方の具体例を3つまとめなさい。

問二、「春は家を立ち去らでも、月の夜は闇の内ながらも思へる」鑑賞の仕方を言い換えた

⑨「の」は格助詞だが、どういう用法か？

⑩「影」の意味は？

⑪「椎柴・白樺などの」はどこに掛かっているか？

⑭「よき人」とはどういう人か？「よき人」の反意語は何か？

⑮「こそ」の結びを文法的に説明しなさい。
⑯「まもり」の訳は？

表現を抜き出しなさい。（
【花は盛りに】の文全体についての設問】
問一、対句表現をまとめなさい。

花は盛りに

雨に向かひて月を恋ひ

①

③

⑤

⑫

春は

（秋の）月の夜は

問二、作者が「よい」としている鑑賞の仕方を現代の日本に当てはめて、「現代版『花は盛りに』」を記しなさい。

